

国公立大学 | 説明問題演習②

【解答】

- (1) 失敗の原因を特定し、そこから得た情報を次の行動を変えるために利用できることが重要だということ。[46 字]
- (2) 複数の要因が結果に影響するため、失敗したという事実だけでは、どの行動を変えるべきか判断できないということ。[50 字]
- (3) 失敗を外的要因のせいにする、自分自身の判断や行動を振り返り、改善しようとしなくなるから。[44 字]
- (4) 成功か失敗かという結果自体より、なぜその結果が生じたのかを理解することが将来の判断には重要だということ。[50 字]
- (5) 正解:(ウ)

【解答・解説 | 自己採点基準】

(1) 12 点

本文の対応箇所 | 下線部①直後
A mistake can become useful only when we can identify what went wrong and use that knowledge to change what we do next.

採点基準 | ①何が悪かったのか・失敗の原因を特定する[4 点] ②失敗から情報・知識を得る[3 点] ③その知識を利用する[2 点] ④次の行動を変える[3 点] 計 12 点

自己採点ポイント | 「失敗すること」そのものではなく、「原因を特定する → 情報を得る → 次の行動を変える」まで書いているかを確認する。

(2) 10 点

本文の対応箇所 | 下線部②直前・直後
In many situations, however, several factors affect the result at the same time.

Because several possible causes are involved, we cannot identify the appropriate change simply from the result itself.

採点基準 | ①複数の要因が結果に影響する[4 点] ②失敗という結果だけでは原因を特定できない[3 点] ③どの行動を変えるべきか判断できない[3 点] 計 10 点

自己採点ポイント | 「複数の要因 → 結果だけでは原因を特定できない → 変えるべき行動が分からない」という論理関係を答案に反映する。

(3) 8 点

本文の対応箇所 | 下線部③直前・直後
As a result, they may explain failure by blaming circumstances rather than examining their own decisions.

If people attribute failure entirely to forces outside their control, they have little reason to reconsider their own behavior.

採点基準 | ①失敗を周囲の状況・外的要因のせいにする[4 点] ②自分自身の判断や行動を検討・改善しなくなる[4 点] 計 8 点

自己採点ポイント | 「自分を守ろうとするから」だけでは抽象的。「外的要因の

せいにする → 自分の判断・行動を検討しない」まで書く。

(4) 12 点

本文の対応箇所 | 下線部④直前・直後
Experience becomes valuable when we examine the connection between our actions and their consequences.

What improves future judgment is not the result alone but an understanding of why that result occurred.

採点基準 | ①成功・失敗という結果自体ではない[3 点] ②行動と結果の関係を検討する[3 点] ③なぜその結果が生じたかを理解する[4 点] ④将来の判断の改善につながる[2 点] 計 12 点

自己採点ポイント | 「結果」ではなく「原因・説明」という対比が中心。特に「なぜその結果になったのかを理解する」という要素を落とさない。

(5) 8 点

正解:(ウ)

(ア) × 第 2 段落では、複数の要因が同時に結果に影響するため、失敗したからといって原因が簡単に特定できるとは限らないと述べています。

(イ) × 第 3 段落では逆に、人は失敗を外的要因のせいにし、自分自身の判断や行動を十分に検討しないことがあると述べています。

(ウ) ○ 第 2・第 4 段落では失敗の結果だけでは原因が分からず、第 4 段落

では成功についても without understanding why it worked 行動を繰り返すことは誤りにつながると述べています。

(エ) × 本文では、成功・失敗という結果を知るだけでは、どの行動を変えたり繰り返したりすべきか判断できないとしています。

【全訳】

失敗は必ずしも学びにつながらない人はよく、私たちは失敗から学ぶと言う。この言葉はもっともらしく聞こえるが、失敗そのものが自動的に学びを生み出すわけではない。①重要なのは、単に失敗したかどうかではなく、その失敗からどのような情報を得ることができるかである。失敗は、何が悪かったのかを特定し、そこから得た知識を次に行うことを変えるために利用できて初めて、役に立つものとなる。

行動とその結果との関係が明確な場合、これは比較的容易である。しかし多くの場合、複数の要因が同時に結果に影響を与える。事業計画が失敗するのは、計画の不備、予想外の競争、時期の悪さ、あるいはそれらが組み合わさった結果かもしれない。②結果がうまくいかなかったという事実だけでは、自分たちの行動のどの部分を変えるべきなのかは分からない。複数の原因が考えられるため、結果だけから適切な改善策を特定することはできないのである。

失敗をどのように解釈するかも、別の難しさを生み出す。人は自然に、自分自身についての肯定的なイメージを守ろう

とする。その結果、自分自身の判断を検討するのではなく、周囲の状況のせいにして失敗を説明することがある。③このような説明の仕方は、失敗が持つ教育的な価値を低下させる可能性がある。失敗を完全に自分の力の及ばない要因のせいになれば、自分自身の行動を改めて検討する理由はほとんどなくなる。

成功から学ぶことには、これとは反対の問題がある。ある行動がよい結果を生むと、人はその行動を繰り返す傾向がある。しかし成功は、判断そのものの質ではなく、運や好都合な状況から生じ

る場合もある。したがって、なぜうまくいったのかを理解せずに成功した行動を繰り返すことは、失敗の原因を無視することと同じくらい、誤った判断につながる可能性がある。

経験が価値を持つのは、自分の行動とその結果とのつながりを検討するときである。④経験から得られる本当の教訓は、結果ではなく、その結果を説明することの中にある。将来の判断を改善するのは、結果そのものではなく、なぜその結果が生じたのかを理解することなのである。